

令和 4 年度
教育行政の執行状況に関する点検評価報告書
(令和 3 年度事業対象)

夕張市教育委員会

目 次

1	はじめに	1
2	点検評価の基本方針	2
3	事業評価の判断基準	3
4	評価委員会の設置	3
5	評価委員会のまとめ	3
6	点検評価の結果	
(1)	安全安心な通学体制の整備	5
	①スクールバス運営 ②遠距離通学支援（通学用自動車運行委託）	
	③児童生徒通学安全対策（バス添乗員） ④児童生徒通学費補助（バス定期代）	
	⑤児童生徒通学安全対策（児童見守りサービス・一斉同報サービス）	
(2)	地域全体で学校を支える体制の充実	9
	①地域学校協働本部事業 ②夕張市学校運営協議会	
(3)	学校教育の充実	11
	①生徒指導対策 ②ことばの教室運営 ③特別支援教育推進協議会補助	
	④総合的な学習の時間等における実践 ⑤中学校体育大会補助 ⑥外国語指導充実	
	⑦平和教育推進事業 ⑧特別支援教育支援員配置 ⑨小中学校学力向上事業	
	⑩小中学校図書充実 ⑪英検・漢検受検に係る検定料補助	
	⑫小・中学校スキー学習に係るリフト代及び用具レンタル代補助	
(4)	学校施設設備の充実	18
	①小・中学校校舎維持補修 ②小・中学校教材教具整備 ③小・中学校維持管理	
	④児童生徒情報化促進	
(5)	児童生徒の健康管理及び学校給食の充実	21
	①小・中学校給食運営 ②中学校給食業務（給食調理員） ③児童生徒の健康管理	
(6)	文化振興	24
	①児童生徒鑑賞教室 ②美術品管理事業 ③社会教育事業 ④ふるさとギャラリー事業	
	⑤生涯学習プロジェクト・わくわくプロジェクト事業 ⑥文化財保護事業	
	⑦りすた図書館事業 ⑧郷土文化施設事業 ⑨人材バンク事業 ⑩音楽発表会	
(7)	スポーツの振興	30
	①文化スポーツセンター管理 ②平和運動公園管理 ③体育施設管理（指定管理等施設）	
	④清水沢プール管理	
7	資 料	33
	・令和4年度夕張市教育行政評価実施要綱	
	・夕張市教育行政評価委員会設置要綱	
	・夕張市教育行政評価委員会実施要綱	
	・夕張市教育行政評価委員会開催経過	
	・令和3年度夕張市教育行政執行方針	

事務事業名	1 安心安全な通学体制の整備	
目的・概要	小・中学校の約64%の児童生徒が路線バス及びスクールバスを利用して通学していることから、事故なく安全に通学できるよう、学校支援ボランティアや市民団体との連携を強化するとともに、ハード、ソフト両面での安全安心対策の充実を図る。	
主な事業項目	(1) スクールバス運営	(6)
	(2) 遠距離通学支援 (通学用自動車運行委託)	(7)
	(3) 児童生徒通学安全対策事業 (バス添乗員)	(8)
	(4) 児童生徒通学費援助 (バス定期代)	(9)
	(5) 児童生徒通学安全対策 (児童見守りサービス・一斉同報サービス)	(10)
課題 方向性	平成30年度以降、公共交通機関（バス路線）の相次ぐ路線の減少及び減便に加え、JR支線の廃止も相まって児童生徒の足の確保対策が一層必要となった。 以降、夕張市内にある少ない交通資源をフル活用し、安心安全な通学体制の確保に努めており、現在まで大きな混乱はなく、通学及び部活動等における児童生徒の足を確保できているものと認識している。 しかし、交通事業者の運転手の高齢化や担い手不足は明らかであり、さらなる路線減少や減便等も考えられることから、今後も、児童生徒の安心安全な通学体制の継続した確保が重要な課題となる。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	小・中学校ならびに高校の教職員及び児童生徒の理解と協力のもと、大きな混乱もなく事業を推進することが出来ているが、今後の公共交通体系の再編に対する児童生徒の足の確保と、運行委託事業者の運転手確保等については、未だ非常に難しい状況である。
判定	評価委員会 評価・意見	
A	(1) 通学自動車の運営・運行について 公共交通機関の路線が減少する中、柔軟な対応により、安定した運行体制を確保したことは評価できる。 将来的問題として、運行委託事業者の運転手確保等の課題ではあるが、引き続き運行体制の確保と安全対策に取り組んでいただきたい。 (2) 通学安全対策等について 新入学時期に行う添乗員による乗車マナーや安全な乗り降りについての指導や通学見守りボランティアによる通学支援、児童の登下校の情報（バスの利用状況）が保護者の携帯電話などに送信される児童見守りサービスなど安全対策が確保され非常に評価できる。 利用者数の減による経費的な問題や利用者の継続及び利用拡大に向けた課題があるが、様々なサービスを活用し通学の安全対策について引き続き検討いただきたい。	

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	1 安心安全な通学体制の整備	
事業項目	(1) スクールバス運営	
実績・効果	小学校から高校までの通学手段の確保として、路線バスが運行しない地区・時間帯を補完する、スクールバスの果たす役割は非常に重要である。令和3年度は、2事業者1法人（丸北ハイヤー(有)、夕張第一交通(株)、(福)夕張市社会福祉協議会）に運行委託を行った。また、登下校のほか、小・中学校の行事等においてもスクールバスを柔軟に活用したため、学校教育活動の幅を広げることに寄与した。 ●令和3年度 スクールバス運行実績 【丸北】（登校）南部線、登川線（下校）登川・滝の上線（他）部活便 【第一】（登校）滝の上・真谷地線（下校）南部・富野線、登川・滝の上線（他）部活便 【社協】（下校）南部・富野線 ●令和3年度 登下校以外のスクールバス利用実績 ・小学校 13回 ・中学校 4回 ・高校 1回	
課題・方向性	本市の単独費用で運行委託しているため、安定した財源の確保が求められている。また、今後においても、スクールバスの運行にあたり、幅広い教育活動への利活用を検討していく必要がある。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	路線バスを中心とした通学体制であるが、これを補完するためのスクールバス運行は必要不可欠である。また、小・中学校の行事等への活用も、柔軟な運行が必要なことから、引き続き安定的かつ継続した事業実施を行っていくものである。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	1 安心安全な通学体制の整備	
事業項目	(2) 遠距離通学支援（通学用自動車運行委託）	
実績・効果	特別な支援を要する児童・生徒のために、登下校の安全かつ確実な通学手段を提供している。 ○平成29年度から、一般社団法人らぶらすに運行を委託。 令和3年度は、本町方面及び登川方面からの利用があった。 ●令和3年度実績 ・小学生2名 中学生5名 ・往路 206日 206回運行 ・復路 100日 116回運行 対象児童・生徒は安全な登下校を確保し、教育活動に支障が生じることはなかった。	
課題・方向性	バス通学が困難な児童・生徒の通学手段として、通学用自動車の利用が成果を上げていることから、今後も事業の継続が必要である。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	バス通学が困難な児童・生徒について、バスの代替手段として通学自動車を利用したことにより、子どもたちにとって安心安全な通学に寄与した。今後も本事業の継続が不可欠である。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	1 安心安全な通学体制の整備	
事業項目	(3) 児童生徒通学安全対策事業（バス添乗員）	
実績・効果	新入学児童がバス通学を開始する4月から1カ月間、児童・生徒が通学に利用する路線バスに添乗員を配置するものである。 バス通学する児童・生徒に対し、乗車マナーや安全な乗降方法などを指導することにより、人命に関わるような事故を防ぎ、安心安全なバス通学に寄与している。 令和3年度のバス添乗員 4名 （本町線）登校1名・下校1名（富野線）1名（登川線）1名	
課題・方向性	バス添乗員の希望者が少なく、継続した人材の確保が難しいことが課題である。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	児童・生徒の安心安全な通学に効果があったものと考えられる。特に小学1年生には、整理券を取ることや定期券の提示等、路線バス利用のルールを学ぶ機会となり、円滑な利用に寄与することにもつながった。今後も乗降マナー等の指導について、継続的に実施する。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	1 安心安全な通学体制の整備	
事業項目	(4) 児童生徒通学費援助（バス定期代）	
実績・効果	学校の統廃合により、徒歩通学が困難な児童生徒を対象に、通学バス定期券を現物支給している。また、平成29年度から夕張高校魅力化事業の一環として、夕張高校に通学する生徒にも通学バス定期券の交付を開始した。 バス定期券については、各学校を通じて個々の保護者に交付しているため、合理的かつ確実に児童生徒の通学が保障されているところである。 令和3年度定期券代金支出額 ・小学校 4,164,330円 ・中学校 2,601,140円 ・高校 2,177,460円	
課題・方向性	文部科学省のへき地児童生徒援助費等補助金が、小学校は平成26年度、中学校は平成27年度で補助期間が終了したため、平成28年度より全額市費負担となった。安定的かつ継続的な通学手段の確保のため、その財源対策が課題。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	児童・生徒の通学手段の確保は市の責務であり、長期的な事業継続が必要なため、今後もより合理的かつ利便性の高い運用を行う必要がある。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	1 安心安全な通学体制の整備	
事業項目	(5) 児童生徒通学安全対策（児童見守りサービス・一斉同報サービス）	
実績・効果	○児童見守りサービス 児童の登下校情報（バスの利用状況）が保護者の携帯電話等に送信されることから、保護者の安心感と利便性を高めることができた。 ＜登録件数＞ 小学校 152件（全児童の9割弱） ○一斉同報サービス 不審者・熊の目撃情報等様々な情報を速やかに発信することにより、情報の共有が図られ、児童及び保護者の安心・安全の向上に寄与している。 ＜登録件数＞ 小学校 160件 中学校 72件 合計 232件	
課題・方向性	児童見守りサービスは岩見沢市・夕張市の2市で活用しているが、児童生徒の減少に伴う利用者数の減により、ICカードの単価やシステム保守料の増額が想定される。 利用の呼びかけや、正しい利用、登録方法を周知していくだけではなく、本市の実態及び当サービスの課題を考え、通学の安全対策として一層適したサービス利用についても検討していく必要がある。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	児童見守りサービス・一斉同報サービスは、安心安全な通学体制の確保に役立つものであるが、ICT活用により様々なサービスがある中で今後の必要性を考え、より適したサービスの利用についても検討していきたい。

事務事業名	2 地域全体で学校を支える体制の充実			
目的・概要	新しい学校づくりや、今後の学校を支える体制づくりのため、地域の教育力の活性化など、夕張市全体で学校を支える活動と、地域に開かれた学校づくりを進める。			
主な事業項目	(1)	地域学校協働本部事業	(6)	
	(2)	夕張市学校運営協議会	(7)	
	(3)		(8)	
	(4)		(9)	
	(5)		(10)	
課題 ・ 方向性	地域学校協働本部事業については継続した事業展開が必要であり、ボランティアの資質向上や、高齢化の進行が大きな課題となっている。 夕張市学校運営協議会については、地域と学校を繋ぐ組織であり、コロナ禍であってもできることを模索し、今後も地域に開かれた学校づくりのために機能を活用していく。			
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価		
B	B	地域全体で学校や児童生徒を支えるため、ボランティアや保護者、また地域の方々にご協力をいただきながら、市民も一体となって事業、会議、協議会を展開し効果をあげているところである。今後も更なる発展のため、学校運営協議会（コミュニティスクール）の発展を目指していく。		
判定	評価委員会 評価・意見			
B	(1) 地域学校協働本部事業について 本事業は平成23年度から事業展開を行い、着実に実績を残している。 人口減少並びに高齢化が加速する本市において、コロナ禍にあっても事業を展開していることに高く評価します。今後は、現在の体制を文部科学省が想定する地域学校協働本部に組織変更し、夕張市学校運営協議会との連携を強化することを期待します。 (2) 夕張市学校運営協議会事業について 本事業は、平成30年度から事業展開を行い、コロナ禍にあっても着実に成果を残している。 今後は地域並びに学校と連携を強化した事業展開期待すると共に各部会において、スキルアップを期待します。加えて、夕張高校、夕張高等養護学校の学校運営協議会との意見交換が行われる全市的な連絡協議会の創設を望む。 【総括】 前述のとおり各事業は着実な事業展開を行っているが、今後の事業進展に課題もあることから判定はBとする。			

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	2	地域全体で学校を支える体制の充実
事業項目	(1)	地域学校協働本部事業
実績・効果	平成22年度に中学校が1校に統合したのに続き平成23年度には小学校も1校になったことから、全市にまたがる支援活動を行うための活動を展開している。また平成23年度から、登下校時の安全指導、バス停での見守り体制を充実させている。 ○登校時の安全指導 ○本の読み聞かせ ○中学校の芸術文化体験教室への協力 ※例年実施している学校行事への補助及びボランティア学習会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	
課題・方向性	ボランティアの高齢化が進み、後継者が不足している。特に登校時の安全指導においての人員不足が課題である。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	コロナ禍により活動が制限されたが、活動内容自体は児童生徒に受け入れられているとともに教員からも頼りにされているように見受けられる。 今後も人材発掘やコミュニティ・スクールとの連携・協働体制を強化したい。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	2	地域全体で学校を支える体制の充実
事業項目	(2)	夕張市学校運営協議会
実績・効果	学校運営協議会は、校長の学校経営方針を承認するなど、保護者や地域住民などが、学校運営への参画や支援・協力を促進することにより、学校と家庭、地域が信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組むもの。 本市においては平成30年5月に「夕張市学校運営協議会」を設立したもの。 学校と地域が連携した取り組みが組織的に行われ、保護者や地域の学校支援活動がさらに活発になった。	
課題・方向性	今後も実施した取り組みに基づく学校評価の結果を共有し、次年度以降の取り組みに反映させていくとともに、関係機関とのさらなる連携・協働が必要である。コロナ禍であってもできることを模索し、「地域とともにある学校」づくりに向け夕張ならではの支援体制を進めたい。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	B	「家庭学習強調週間」や「夕張クリーンday」などの既存の取組の継続に加え、新たな取り組みとして拠点複合施設「りすた」周辺の環境美化に取り組み花壇づくりなどを行うことができた。

事務事業名	3 学校教育の充実			
目的・概要	地域との連携と協働による新しい学校づくりを進め、地域と学校、児童生徒の実態に応じた教育課程を明らかにし、主体的に学ぶことのできる教育内容の充実を図る取組を通じ、児童生徒の基礎学力の向上を目指す。			
主な事業項目	(1)	生徒指導対策	(7)	平和教育推進事業
	(2)	ことばの教室運営	(8)	特別支援教育支援員配置
	(3)	特別支援教育推進協議会補助	(9)	小中学校学力向上事業
	(4)	総合的な学習の時間等における実践	(10)	小中学校図書充実
	(5)	中学校体育大会補助	(11)	英検・漢検受検に係る検定料補助
	(6)	外国語指導充実	(12)	小・中学校スキー学習に係るリフト代及び用具レンタル代補助
課題・方向性	・課題 別紙細目（１）～（１２）に記載のとおり ・方向性 学ぶことの楽しさや達成感をもち、基礎的学力を定着させる指導を行うとともに、体感的な学習や総合的学習の充実を図り、郷土愛教育の充実を図る。 学習、学力の向上を図るため、特別教育支援員のきめ細かな学習支援や英検・漢検の受検により、学習意欲を高めながら基礎学力の向上につなげる。 また、小・中学校のスキー学習におけるリフト代及び用具レンタル代補助を実施し、保護者負担の軽減を図ったほか、夕張ならではの学習活動に大きく寄与した。			
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価		
B	B	子どもたち一人ひとりを大切に、個性を伸ばす取組として、特別な支援を要する子どもたちを大切に育て、児童生徒が自発的かつ積極的に学習する総合学習の充実、ALTを活用した小・中学校における外国語教育の充実、学校図書の増書による機能の向上、さらに副読本を活用し夕張の歴史と現況についての教育の充実を図った。		
判定	評価委員会 評価・意見			
B	概ね事業全体が順調に執行、達成されており、十分な事業効果が得られている。特にQ-Uは、よりよい学級経営に欠かせないものとなっている。 総合的な学習の時間における地域学習は、ふるさとに対する誇りを育む上で重要な施策であり、今後も継続を期待する。 特別支援教育の重要性も高まっており、特別支援教育支援員の継続配置を望む。 学力向上は夕張市の教育の重要課題であり、特に算数、数学が弱いことから予算措置の検討をしていただきたい。 また、国語力の低下が学力の低下やコミュニケーション能力の低下を招くと考えている。基本的な国語力を育てるために読書活動は重要である。学校図書の充実に今後とも配慮願いたい。 今後とも限られた予算規模の中で、夕張市教育委員会と学校、関係機関が連携、協働し、知恵を絞りながら、よりよい教育環境を創出していくことを期待いたします。			

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	3	学校教育の充実
事業項目	(1)	生徒指導対策
実績・効果	児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、安定した学級経営が求められる。子どもの健全育成のもと、いじめの問題に関して、道教委が行う「いじめの問題の実態把握及びその対応状況等調査」を通して児童生徒に年2回アンケート調査を行い、いじめの実態を確認し生徒指導に活用した。 また、平成28年度より、Q-U（いここのちの良い学校生活を送るためのアンケート）を実施しており、学級集団の成熟度合いや、児童生徒の学級での満足度や学校生活の意欲を把握し、学級経営の改善を図るツールとして活用している。 令和3年度も小・中学校全学年に実施し、北翔大学・山谷教授を招いて研修会を行った。	
課題・方向性	いじめの問題は迅速な発見が重要であり、普段の学校生活では顕在化しない点をアンケート調査でカバーしている。また、Q-Uの活用により、個々の状況や学級集団の様子が客観的に分かるため、よりよい学級経営に反映させることができる。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	B	生徒指導のうえで、児童生徒に自覚を促し改善を図ることが重要であり、上記のいじめの実態把握調査やQ-Uの活用は、その手段として欠かせないものであるが、結果を的確に分析し生徒指導に生かす能力の向上が課題である。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	3	学校教育の充実
事業項目	(2)	ことばの教室運営
実績・効果	ことばや運動の発達等に心配のある子どもに対しての指導を実施。各機関の専門家を呼んでの指導など子どもの状態に応じたきめ細やかな指導を実施している。また保護者から育児に対する相談も受けるなど地域の子育て拠点としての役割も果たしている。 利用者数（令和3年度末） 児童35名（小学校の通級指導教室含む）、幼児17名	
課題・方向性	職員が高齢化してきており、若い人材も市内では希望者がいない状況である。職務上、採用にあたっては教員免許、保育士資格等を求めていることから、今後は人材確保が厳しい状況である。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	市全体の子どもの数が減少する中、利用者数はほぼ変わらず本市の障がい児教育における役割は年々大きくなっている。また、保護者の子育てに対する相談や幼稚園、保育園ほか関係機関との連携の要として事業効果は高い。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	3 学校教育の充実	
事業項目	(3) 特別支援教育推進協議会補助	
実績・効果	障がいを持つ児童の個々の状態に対応した柔軟な教育内容、指導方法等により児童生徒の個々の能力を伸ばす必要があり、本事業は自立と社会参加を目指し、普段の学習では経験することのできない、集合学習や市外での宿泊学習を行なうことにより、児童生徒の成長に大きな効果を果たしている。 昨年度に引き続き、令和3年度の活動においても新型コロナウイルス感染防止の観点から中止とした事業があり、予定していた活動を行うことができなかった。	
課題・方向性	発達的な障がいの児童・生徒が増加しているのは全国的傾向であり、より多くの人々に理解や協力を共有してもらう必要がある。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
C	C	本事業は特別な支援を要する児童生徒の自立と社会参加の一助となり、普段の授業では経験のできない宿泊学習や集合学習を通して児童生徒の発達と成長に大きな効果をもたらしている。令和3年度も事業規模を縮小せざるを得なかったが、次年度以降は宿泊学習等を含めた事業の継続が必要である。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	3 学校教育の充実	
事業項目	(4) 総合的な学習の時間等における実践	
実績・効果	小学校においては、夕張を知る、夕張の自然、夕張の福祉、夕張の未来について調べ、まとめ、発表を行った。 中学校においては、夕張の伝統文化や郷土史、自然などの社会環境、福祉や産業に目を向け、職業観をもって自分の将来について考えられる取り組みを行った。 小・中学校がそれぞれ地域学習、職業体験、文化体験、福祉ボランティアなど幅広い分野において総合的な学習を実施し、学習活動の充実・発展を図った。 本事業を通じて、本市ならではの特色ある学習を実施することができたと考えられる。	
課題・方向性	各学校・各学年において、課題が段階的に組まれているため、学年間での発展的な学習が実施できている。夕張を知る学習が深められているので、今後は郷土愛教育をどのように実施するかが課題である。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	本市においては、幅の広い学習活動を行う中で、問題解決能力や物事に対して主体的かつ創造的に取り組む能力、各教科等で身に付けた知識や技能を相互に関連付け、学習や生活に活かすことに大きく役立っている。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	3 学校教育の充実	
事業項目	(5) 中学校体育大会補助	
実績・効果	学校教育活動として行われる中学校体育大会への、市内中学校生徒及び引率教諭等の派遣に要する旅費等、経費の一部を補助するための事業であり、本市の体育振興に大きな成果が得られていると考える。 ○主な実績 令和3年度全国中学校体育大会 第59回全国中学校スキー大会 (令和4年2月1日～4日 長野県野沢温泉スキー場) 全道・全国大会においては、遠隔地となるため、大会参加の交通費及び宿泊費が高額となるが、本補助金を活用することができ、中学校及び保護者の経済的負担を軽減し、大会(競技)に集中させることができた。	
課題・方向性	大会の成績や開催地により、事業費に大きな差が生じるため、各競技のスケジュールや会場等を把握し、支出見込額を抑える必要がある。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	B	生徒が教育活動の一環として行われる大会等に参加するための費用を補助するための事業であり、本市の体育振興のためにも必要性は高く、教育効果も高い事業である。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	3 学校教育の充実	
事業項目	(6) 外国語指導充実	
実績・効果	昨年度来日したALTを8月に再任用し、継続した活動を行うことができた。 小学校において、英語や外国の文化・習慣に慣れ親しむことを通して、異文化への興味・関心を高めることができ、外国語教育を推進することができた。 中学校では、英語担当教員と外国語指導助手(ALT)とのチームティーチングを通して、生徒の実践的なコミュニケーション能力や積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育成するとともに、中学校における外国語教育の充実に貢献することができた。 また、市内保育園及び認定こども園においても、概ね月1回の訪問をし、遊びの中で英語に慣れ親しむ機会を作っている。	
課題・方向性	外国語指導助手(ALT)に対して本市の地域性を考慮した生活指導や地域との関わり方等について継続して指導していく必要がある。 外国語教育の充実とグローバル人材育成に向けて途切れのない継続が必要。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	小学校における国際理解教育と中学校における外国語教育を円滑に進めることに寄与することができた。今後も児童生徒の継続的な教育活動を保障するため、安定した外国語指導助手(ALT)等の確保が必要である。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	3 学校教育の充実	
事業項目	(7) 平和教育推進事業	
実績・効果	平成6年度から継続している広島平和祈念式典への中学生派遣事業は、生徒が被爆体験者の講話や原爆による戦禍を目の当たりにすることで、戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さを深く学ぶ貴重な機会となっており、成長期にある生徒の情操教育や人格形成に大きく寄与している。 令和3年度は、前年に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大により事業中止となった。	
課題・方向性	本事業は、令和7年度まで寄付金から派遣費用を捻出するが、この期間終了後も継続して事業が実施できるよう方向性の検討が必要。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
C	C	戦争がもたらす悲劇を実際に見聞する貴重な機会であり、生徒にとって大きな成長を促す契機である。令和3年度は事業中止となったが、今後も継続が必要と考える。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	3 学校教育の充実	
事業項目	(8) 特別支援教育支援員配置	
実績・効果	普通学級における特別な支援を要する児童生徒（多動・発達障がい等）の割合が年々増加傾向にあり、個々の状況に応じた適切な体制が必要である。 当該児童生徒に対する学習面などの支援体制の確保と、学級全体の学力の底上げを図ることを目的として、特別支援教育支援員を配置し、きめ細やかな指導を行うことにより極めて高い教育的効果をあげるとともに、円滑な学級運営と学級全体の基礎学力向上に貢献している。 令和3年度は、小学校に3名、中学校に1名を配置した。	
課題・方向性	・共働き世帯の増加や社会情勢の変化により、特別な支援を要する児童生徒の割合が増加傾向にあり、支援員の安定した確保が求められる。 ・支援員は教員免許を持つ者が望ましいが、市内での人材確保が難しい状況。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	普通学級に在籍する特別な支援を要する子どもたちを適切に指導（支援）するためには教員だけの取り組みでは困難である。特に本市は小・中学校の1校化や環境の変化等により当該児童生徒が増加傾向にあり、支援体制の確保は不可欠となっている。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	3	学校教育の充実
事業項目	(9)	小中学校学力向上事業
実績・効果	本事業は、児童・生徒の知能及び学力、学級集団の実態を把握するため、また、学習の定着度を確認し、学習指導の工夫・改善に活かすと共に、より良い学級集団の形成を図るための指標として用いることが可能であり、効果が大きいと考える。 小学校では、知能検査を2年生と5年生に、NRT学力検査を1～6年生に実施し、Q-U（いこちの良い学校生活を送るためのアンケート）を全学年実施した。 中学校では、知能検査を1年生に、NRT学力検査を1年生～3年生に実施し、Q-Uを全学年実施した。 これらの実施結果をもとに、授業改善や指導力向上、より良い学級集団の形成の取り組みを行った。また、学力の経年変化を追跡し、小・中学校の学習連携を図った。 あわせて、教員を対象にQ-U活用のための研修会を小・中学校にて実施した。	
課題・方向性	学力向上に関しては、学力検査を分析し学校改善を図るとともに、Q-Uによる学級の実態を把握し、学力検査とリンクした学力向上へさらに発展させたいと考えている。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	本事業は児童生徒の学力向上において必要なものであり、教職員が児童生徒の実態を把握し指導することにより学習環境や学級運営にも役立っている。小・中学校の学級の実態把握や改善策を考え、学力向上の基盤を形成する基礎データとして、本事業は不可欠である。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	3	学校教育の充実
事業項目	(10)	小中学校図書充実
実績・効果	新学習指導要領により学校図書館の機能向上が求められており、文科省が学校の規模により標準蔵書数を定めていることから基準に近づくよう図書を購入した。 ・蔵書数(令和3年度末) 小学校～7,763冊（標準蔵書数7,480冊）、中学校～7,080冊（標準蔵書数7,360冊） ・令和3年度図書購入数内訳 小学校～298冊（充足率103.8%）、中学校～260冊（充足率96.2%）	
課題・方向性	学校図書については、今後も充足率を満たすよう継続的な購入を継続する。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	本年度も小・中学校との協議により、計画的な図書の購入を行った。 今後も小学校、中学校ともに標準蔵書数を上回るよう更なる蔵書数の充実を図る。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	3	学校教育の充実
事業項目	(11)	英検・漢検受検に係る検定料補助
実績・効果	開始当初は中学生のみ対象であったが、平成29年度から小学生も対象に加え、実用英語技能検定（英検）及び日本漢字能力検定（漢検）の検定料を全額補助した。子どもの意欲を高めるため、複数回受検も補助対象とし、可否結果は問わない。 ●英検・漢検とも、公的かつ認知度の高い検定であり、学習意欲と学力の向上に大きく寄与するものと考ええる。 ●小学生の検定料補助実績は漢検のみであったが、令和3年度は、英検Jrの受検に対する補助も行うことができた。 ・英検Jr受検者数 35名（小学校）、英検受検者数 32名（中学生） ・漢検受検者数 56名（小学生）、41名（中学生） ・補助交付金額合計 345,600円	
課題・方向性	平成28年度より実施している各種検定料補助であるが、生徒及び保護者に対する検定料補助の取り組みが周知され、浸透しつつある。今後も、さらに上位級への受検意欲を喚起するべく、本事業を継続していきたい。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	児童生徒に対して英検・漢検の実用性の認知を図りながら、授業等においても学習意欲及び学力向上の目標のひとつと捉え、受検意欲を喚起することで、今後もさらなる受検機会の増加につなげたい。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	3	学校教育の充実
事業項目	(12)	小・中学校スキー学習に係るリフト代及び用具レンタル代補助
実績・効果	平成29年度より、スキー学習に係るリフト代及びスキー用具レンタル代（中学校のみ）の補助を開始。 ・リフト代は、参加児童・生徒数にリフト代単価を乗じた実額を補助 ・スキー用具レンタルは、希望する生徒に対して、かかる費用を全額補助 ●保護者負担の軽減につながり、本市の資源を生かした冬期の学習活動に寄与し、子どもの体力・運動能力の向上に貢献するものと考ええる。 ●令和3年度実績 ・スキー学習 （小学校 1～6年生各2回、特別支援学級1回 中学校 1・2年生各1回） ○（小）マウントレースイスキー場で実施（2回合計292名） ○（中）マウントレースイスキー場で実施（合計51名） （新型コロナウイルス感染症予防対策のため1回中止） - 延べ343名 補助交付金額合計 211,670円 ・スキー用具レンタル（中学校）31名利用（利用率60.8%） ・補助交付金額合計 100,650円	
課題・方向性	スキー用具レンタルは、約半数の生徒が利用する結果となった。今後も、保護者負担の軽減とスキー学習実施に関する支援に努めてまいりたい。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	成長著しい時期にある、中学生に対する用具レンタル事業は、全ての用具から小物のみといったあらゆる希望に対応し、それぞれのニーズに合わせて提供できたことが、評価できる点であると考ええる。

事務事業名	4 学校施設設備の充実		
目的・概要	児童生徒が安全で快適な学校生活を送れるよう、児童生徒の安全の確保、施設の耐久性と教育環境の質的向上のため、必要な事業を行う。 また、教材教具等については、児童生徒の学習活動に支障がないよう計画的に整備を行う。 児童生徒情報化促進事業については、GIGAスクール構想に基づき整備を推進する。		
主な事業項目	(1)	小・中学校校舎維持補修	(6)
	(2)	小・中学校教材教具整備	(7)
	(3)	小・中学校維持管理	(8)
	(4)	児童生徒情報化促進	(9)
	(5)		(10)
課題・方向性	・課題 別紙細目（１）～（４）に記載のとおり ・方向性 学校統合時の大規模改修により必要な設備等の整備を行っているが、未改修部分の老朽化が表面化してきていることから、児童生徒の安全確保を第一に適切な調査の実施と計画的な整備を行い、教育環境の維持向上に努める。 また、児童生徒情報化促進事業については、校務支援システム導入による教職員の勤務管理等への活用、１人１台端末による学習活動への活用環境を整備する。		
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価	
B	B	教育ICT化も進み、学びを保障する教育環境が提供され、より授業に関心を持たせるための授業展開がされている。 今後は、国のGIGAスクール構想に基づき、１人１台タブレットの活用が本格化されるため、教育委員会と小・中学校で運用についての具体的な協議・連携が必要である。	
判定	評価委員会 評価・意見		
B	概ね事業全体が順調に執行、達成されており、十分な事業効果が得られている。 国のGIGAスクール構想に基づきタブレット等の教育ＩＣＴ環境が整備されてきている。その運用や活用面でも十分に効果が得られるよう効果的な予算活用を行い、より一層の整備を進めていただきたい。 特にGoogle Workspace for Educationに代表される各種クラウドサービスの早期導入をお願いしたい。 また、学校の校舎施設の整備についても、児童生徒の学習活動に支障が出ぬよう、今後とも必要な予算措置をお願いいたします。		

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	4	学校施設設備の充実
事業項目	(1)	小・中学校校舎維持補修
実績・効果	小学校及び中学校において、限られた予算の中で、状況に応じて修繕を実施 <実績> ○小学校 予算額3,595千円 決算額 3,595千円(執行率100.0%) ○中学校 予算額 400千円 決算額 175千円(執行率43.8%) ・大規模な修繕が必要な場合は補正予算等で対応した。 その他 令和3年度に学校施設整備を行った事業 中学校 グラウンド整備(土入れ:整備面積625㎡) 委託実施 決算額 550千円	
課題・方向性	小・中学校とともに統合時に大規模改修を行ったが、未改修部分の老朽化が表面化してきている状況から、適切な調査を実施しながら計画的な整備が必要となる。 なお、大規模改修後の設備についても劣化が進むため、併せて必要な予算の確保に努める。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	B	小中学校共に学校統合時に大規模改修を行っているが、未改修部分及び改修部分の経年劣化が表面化してきていることから、今後、補修箇所が増大する可能性がある。将来にむけて施設の長寿命化を図るため適切な予算措置を行っていく必要がある。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	4	学校施設設備の充実
事業項目	(2)	小・中学校教材教具整備
実績・効果	小・中学校ともに、児童生徒の学習意欲を引き出すため、教育方針や経営計画に沿って、予算の範囲内で教材教具の整備を行った。	
課題・方向性	財政状況が厳しい状況ではあるが、児童生徒の学習意欲を引き出すため、教育方針や経営計画に沿って、限られた予算の範囲内で必要な教材教具の整備を行う。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	B	小・中学校とも新学習指導要領に基づき、児童生徒の学習意欲を引き出し、教育方針に沿った形で教材の整備を行うことで、一定の成果を上げるものと考えているが、限られた予算の中で、効果的な教材教具の整備に向け、引き続き学校との連携、協議及び検討が必要である。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	4	学校施設設備の充実
事業項目	(3)	小・中学校維持管理
実績・効果	小学校及び中学校において、限られた予算の中で、状況に応じて修繕を実施 <実績>小・中学校児童生徒の良好な学習環境の維持（各種保守委託）及び教職員の業務遂行のため必要な事務的経費（需用費・役務費等）を限られた予算の中で効率的に実施 （各種保守委託料） ○小学校 予算額 3,295千円 決算額 3,218千円（執行率97.7%） ○中学校 予算額 4,133千円 決算額 4,133千円（執行率100.0%） （需用費） ○小学校 予算額 9,769千円 決算額 9,769千円（執行率100.0%） ○中学校 予算額 16,422千円 決算額 16,422千円（執行率100.0%） （役務費） ○小学校 予算額 627千円 決算額 627千円（執行率100.0%） ○中学校 予算額 640千円 決算額 589千円（執行率92.0%）	
課題・方向性	小中学校共に大規模改修に含まれていない施設設備の老朽化が表面化してきており、保守点検時に様々な修繕必要箇所が散見されてきていることから、良好な学習環境保持のため、必要な予算の確保に努める。なお、大規模改修後の設備についても劣化が進むため、併せて必要な予算の確保に努める。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	B	限られた予算の中で児童生徒の良好な学習環境を提供するため、予算措置を行ってきているが、今後も必要な予算の確保について学校現場と協議し検討していく。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	4	学校施設設備の充実
事業項目	(4)	児童生徒情報化促進
実績・効果	これまで、小・中学校には、タブレット40台、電子黒板1台、実物投影機1台が整備されていた。 文部科学省のGIGAスクール構想に基づき、令和2年度までに、小学校に210台、中学校に110台のタブレット（うち40台を更新）を整備したところである。 令和3年度は、国の「公立学校情報機器整備費補助金」を活用し、タブレット端末のクラウドネットワーク基盤保守契約を締結し、1人1台端末を授業で活用する際の運用支援を受けた。	
課題・方向性	ICT教育機材の導入に伴う学力向上効果は期待されるが、効果的な授業での活用には教職員の理解と指導力向上を要するため、研修及び学習による技能習得が求められる。 また、今後はGoogle Workspace for Educationに代表されるクラウドサービスを軸に学習活動が展開されるため、教育委員会と小・中学校が連携し、子どもの学習活動へのICT機器の効果的な活用についての検討が必要。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	GIGAスクール構想に基づく、1人1台端末の整備に続き、運用面での支援を令和3年度に開始することができた。 今後は、学力向上のためタブレット等をどう活用すべきか、新しい学習スタイルを確立していく必要がある。

事務事業名	5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実			
目的・概要	児童生徒の発達段階に応じた献立の充実と、食に対する指導と実践を通して、食育の充実を図るとともに、関係機関と連携して食中毒などの給食事故を防止し、子どもたちに喜ばれる安心安全な学校給食の提供に努める。 また、児童生徒の健康管理については、学校保健法の規定に基づき必要な健診等を行うとともに、関係機関との緊密な連携により、インフルエンザなどの感染症の予防に努める。			
主な事業項目	(1)	小・中学校給食運営	(6)	
	(2)	中学校給食業務（給食調理員）	(7)	
	(3)	児童生徒の健康管理	(8)	
	(4)		(9)	
	(5)		(10)	
課題・方向性	・課題 別紙細目（１）～（３）に記載のとおり ・方向性 地元食材や季節に応じた新鮮で安全な食材を積極的に取り入れていくとともに、適正な調理員数を確保する。また、学校、保健所、医療機関などと緊密に連携し、新型コロナウイルス等の感染症の予防対策に努めるとともに、北海道歯・口腔の健康づくり8020推進条例及び夕張市フッ化物洗口推進事業実施要綱に基づき、児童の虫歯予防に取り組んでいく。			
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価		
B	B	本市の学校給食は、小中共同調理場として運営され、衛生管理の徹底により安全・安心な給食の提供に努めている。また、食物アレルギーの調査を行い適正な対策を講じているところである。調理業務について、令和元年5月にプロポーザル実施し民間への外部委託を開始した。 小中学校が各１校になり、新型コロナウイルス等の感染症が広がりやすい環境にあるため、感染拡大防止のため児童生徒に対する「マスク着用・手洗い」等の指導を行っている。		
判定	評価委員会 評価・意見			
B	概ね事業全体が順調に執行、達成されており、十分な事業効果が得られている。 学校給食においては、より一層地元食材や季節に応じた新鮮で安全な食材を積極的に取り入れていただきたい。そのためにも教育委員会と共同調理場、委託業者、学校、栄養教諭が円滑な関係を築き、連携、協働し、安全でおいしい学校給食を提供していくことを期待する。 また、学校給食を通じた食育の一層の充実も望まれる。 健康管理については、いまだコロナ禍の状況があり、感染拡大防止の措置が今後も望まれる。			

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	5	児童生徒の健康管理及び学校給食の充実
事業項目	(1)	小・中学校給食運営
実績・効果	- 給食の提供について 異物混入、食中毒等の事故が無いよう、安心・安全な給食の提供に努めている。 - 献立について 栄養所要量はもちろん、彩り、伝統食、地場産食材も取り入れ子どもたちに喜ばれる給食提供ができた。 - 準要保護児童・生徒に対する給食費の扶助について 小学校 23名 中学校 8名 夕張市は完全給食制であり、給食は教育的側面（食育）から、給食の提供は不可欠であると考えている。	
課題・方向性	調理場の設置から10年が経過し各種機械等設備の不具合が生じてきている。給食が提供できないことへの代替措置がないため計画的な修繕及び更新が引き続き必要。 給食費の未納については、3年度は少額の未納が発生しているため小中学校と協力し、完納を目指し連携・対応していく。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	B	安心・安全な給食を提供するのはもちろんのこと、学校給食を通じて食に関する興味・関心を高める献立作成ができた。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	5	児童生徒の健康管理及び学校給食の充実
事業項目	(2)	中学校給食業務（給食調理員）
実績・効果	給食供給数 約360食（小中学校） 調理員の人材不足の解消及びより豊かな学校給食の充実と継続的かつ効果的な給食運営を図るため、調理業務を外部委託することとしていた。 令和元年5月にプロポーザルを実施し、業者を選定できたため、令和元年8月1日より、調理業務の外部委託を開始した。 令和3年度においては、小学校のコロナウィルス感染症拡大防止のための臨時休業期間（2月24日～2月28日）を除き、同調理場（中学校）と委託業者が連携し、毎日、安心・安全な給食を提供することができた。	
課題・方向性	平成30年度より安心・安全な給食を提供するために衛生管理の徹底、また調理員のなり手がおらず、調理員の確保が課題であり、持続的な給食運営を実施するため、調理業務を外部委託とする検討を行ってきた。 調理業務を令和元年度より外部委託したことにより、衛生管理及び人材確保の面で一定程度向上が見られた。 次回の契約となる令和4年8月以降も委託業者と連携をし、学校給食の充実を図る。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	調理業務を外部委託したことにより、人材の確保及び衛生管理技術が向上した。 次年度以降も、教育委員会、共同調理場（中学校）及び委託業者とが連携し、より豊かな食育としての給食を提供できるように努める。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実	
事業項目	(3) 児童生徒の健康管理	
実績・効果	・児童生徒の健康診断について 学校保健安全法に定められた各種健診について遅滞なく実施。 ・感染症の拡大防止について 平成27年12月より、幼・保・小・中・高・高等養護間で「感染症報告」を市教委で取りまとめ、情報共有に努め、兄弟間等での感染防止のための情報共有を図った。 ＜臨時休校＞ 小学校（コロナ感染拡大防止 令和4年2月24日～2月28日） ・フッ化物洗口について 北海道歯・口腔の健康づくり8020推進条例及び夕張市フッ化物洗口推進事業実施要綱に基づき、平成30年度からは小学校の全学年で実施し、児童の虫歯予防に取り組んでいたが、令和3年度はコロナウィルス感染拡大防止の観点から小学校と協議のうえ実施を見送った。	
課題・方向性	学校のみで感染症の拡大を防ぐことは難しいことから、家庭でも手洗い・うがい等感染症の予防に努める必要がある。 フッ化物洗口は令和4年度7月時点で再開未定。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
C	B	養護教諭、学校医等の協力により児童・生徒の健康診断等を遅滞なく確実に実施することができた。 小学校で学校閉鎖を実施したこともあり、今後も出席停止の措置を速やかに行うなど感染症の拡大防止に努める。

事務事業名	6 文化振興			
目的・概要	社会構造の変化に伴い、多様化する市民の学習要求に対応し、市民一人ひとりが心豊かな生活を充実させるため、市民の自発的学習活動を援助するとともに、体系的、継続的な社会教育活動を推進する。			
主な事業項目	(1)	児童生徒鑑賞教室	(6)	文化財保護事業
	(2)	美術品管理事業	(7)	りすた図書館事業
	(3)	社会教育事業	(8)	郷土文化施設事業
	(4)	ふるさとギャラリー事業	(9)	人材バンク事業
	(5)	生涯学習プロジェクト・わくわくプロジェクト事業	(10)	音楽発表会事業
課題・方向性	文化振興は市民の充実した生活に不可欠であることから、市民との連携を強化し、従来の事業を継続的に実施するとともに、積み残されている課題の解決や新たな事業についても検討していく必要がある。令和3年度はコロナ禍により様々な制約を要したが、感染対策を徹底した上で工夫を凝らして事業を実施していく。 今後、令和2年3月に供用開始となった拠点複合施設「りすた」を活用し、「文化振興事業」に積極的に取り組んでいく。			
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価		
B	A	各種事業も予算措置が厳しい状況にあるが、現状維持を基本としながら市民団体等との連携や創意工夫により円滑かつ効率的な運営が行われている。 石炭博物館模擬坑道の復旧工事に必要な保全計画が策定できたことから早期再開を目指す。		
判定	評価委員会 評価・意見			
B	社会教育事業・ふるさとギャラリー事業では、市民参加の観覧傾聴にとどまらず、企画・運営・集客等にも責任を置いた市民参加型の事業が目立ち「りすた」が真の意味での市民活動の拠点であると意識づけるものであった。このような挑戦は今後も大いに進めて欲しい。 児童生徒鑑賞教室・音楽発表会については、生の舞台や市民の文化活動に触れる数少ない貴重な機会であることから、今後も計画的な事業継続を望むものである。鑑賞教室は学校での実施ではあるが、広く市民へ広報し安全を配慮にうえ、市民の鑑賞機会となることも希望したい。 美術品・文化財保護・郷土文化施設については、維持管理と活用の両面を考慮しながらも、その価値を広く市民から理解されたうえで全国へ発信する必要があるものであり、展示・広報など常用的に市民の目に触れる機会拡充に期待したい。 人材バンク・生涯学習推進プロジェクト等、市内の人材を活用した学習機会の提供は、生涯学習人口の底辺拡大・講師となる人材のスキルアップの面から見ても有意義な仕組みであることから、活用される場の拡充が望まれる。 図書館運営に関しては、コロナ禍に対応しながら、図書館機能の充実・本に親しんでもらうための学校等での活動が進められていることが高く評価される。 全体を通して、コロナ禍での混乱や制限はあったものの、拠点複合施設「りすた」を活用しての事業展開は当市における生涯学習社会の推進を強く印象づけたと思われ、また、文化活動においても前進が感じられるものである。 しかし、いまだ、広報・宣伝の不十分さを感じるところもあり、展示・事業内容等の創意工夫と同様、市民を一人でも多く呼び込めるような仕掛けづくりや関心を向けてもらうPRに、今後ますます期待したいところである。			

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	6 文化振興	
事業項目	(1) 児童生徒鑑賞教室	
実績・効果	学校教諭で組織する実行委員会に対し補助金を支出し実施。 公演内容：音楽「楽しく遊ぼう！音楽で」 公演団体：ハート音楽院 日時：令和3年7月9日（金）5・6校時 場所：夕張中学校体育館 概要：コロナ禍によりさまざまな制限を要したが、公演団体には感染対策を徹底した上で工夫を凝らしていただき、低学年から高学年まで楽しむことができた。	
課題・方向性	音楽・芸術・伝統文化等計画的な内容となるよう実行委員会（各学校担当教諭）主体で、情勢に合わせた感染対策を講じた上で継続的に取り組むことが重要と考える。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	コロナ禍により小学校での劇団鑑賞は中止となったが、中学校での公演は感染対策を講じ開催することができた。学校において本物の舞台芸術に触れる機会は、情操教育また鑑賞態度の学習のためにも有意義な事業である。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	6 文化振興	
事業項目	(2) 美術品管理事業	
実績・効果	- 平成24年度から中学校の余裕教室に整理・保管し活用しているもの。 - 平成25年度からは、専門知識を持つ臨時職員を雇用し、市役所内のギャラリーに作品を展示するなど活用。同年度に、美術品をより良好な環境で収蔵できるよう警備システムと空調設備を設置。 - 平成26年度に美術館建物の解体、屋根崩落で破損した美術品3点の修繕、美術館地下から兵馬俑のレプリカ等の搬出を実施。 - 平成26年度以降、市内の公共施設（市役所・南支所・小学校・中学校・文化スポーツセンター）における展示のみならず他の自治体の美術館への貸出を実施している。	
課題・方向性	専門知識を持った会計年度任用職員1名を継続して雇用し、より多くの展示機会の実現を目指し作品の活用を図る。公共施設に準ずる施設における展示も検討することや他の自治体の美術館等への貸出もこれまでに以上を実施したい。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	収蔵品を活用するための体制づくりが整ってきており、市内の公共施設での展示や他の自治体への貸出が増えている。本年度はりすたの供用開始に伴い、りすたでも積極的に展示を行った。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	6	文化振興
事業項目	(3)	社会教育事業
実績・効果	実際生活に即する教育・学術及び文化に関する各種の事業を行い、市民の教養の向上、健康の増進を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進を主な目的としてしている。 ○英会話教室 ○えいごであそぼう ○高齢者学級『もも倶楽部』 ○朝活キッズ！ ○りすた周辺景観美化活動（新規） ○市民学習講座（新規） ○りすたChallenge協働事業（新規）	
課題・方向性	伝統と現代課題を踏まえた上で、事業の必要性や参加者の需要・満足度に基づき、常に「新規・継続・見直し」を視野に今後も新しい視点で運営していく。 供用開始したばかりの「りすた」を主な開催場所とすることで、施設のにぎわい創出にも力を入れたい。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	拠点複合施設「りすた」の供用開始により、豊かな交流と気軽な学びの場を提供するため、精力的に新規事業を展開した。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	6	文化振興
事業項目	(4)	ふるさとギャラリー事業
実績・効果	これまでは市庁舎の空きスペースを使用し、市民の作品展示の場の提供や美術館収蔵作品の計画的展示を実施していたが、市中心部に拠点複合施設「りすた」が供用開始となったことから、空きスペースなどを活用し展示会を行った。	
課題・方向性	展示会の満足度を高められるよう、展示方法の工夫等の適切なアドバイスを行なえるよう職員の資質向上。 多くの方に見てもらえるような周知の仕方や展示備品の工夫・見直しが必要。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	B	拠点複合施設「りすた」も市民に認知され、様々な分野での活用がすすんでいるところ。 美術館がないことから、その活動を補完する意味でも一定の成果があるものとする。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	6	文化振興
事業項目	(5)	生涯学習プロジェクト・わくわくプロジェクト事業
実績・効果	令和元年度からわくわくプロジェクトは生涯学習プロジェクトに吸収されたが、引き続き市民や教職員を実行委員として様々な生涯学習活動を推進している。 ○市教委との協働により「朝活キッズ!」を実施。 ○全市民（主に幼児から小学生）を対象に夏期・冬期休業を利用し、創作活動を企画運営。	
課題・方向性	学校教育と社会教育の利点を生かした事業運営を目指しており、各スタッフの学びの場にもなっているが、恒常的なスタッフ不足が課題。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	事業実施にあたり市民団体との連携は不可欠な状況。社会教育関係職員もスタッフの一員であり、団体の活動趣旨と運営の利便を考え市教委で事務局的な補佐をしているが、手が回らない状況もあるため、組織・事業の転換を検討したい。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	6	文化振興
事業項目	(6)	文化財保護事業
実績・効果	・既存の指定文化財の保護と普及に努め、市広報により文化財の紹介を行った。 ・夕張岳関係者協議会を開催し、国指定天然記念物「夕張岳の高山植物群落及び蛇紋岩メランジュ帯」の保護・保全活動、夕張岳ヒュッテの維持・管理等について意見交換を行った。	
課題・方向性	・文化財保護委員会において、文化財の現状確認と文化財候補の調査、登録有形文化財である「旧北炭夕張炭鉱模擬坑道」の復旧に向けた情報共有を行う。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	予算も人材も不足しているが、文化財保護委員との協働で市指定文化財等の劣化状況を調査し、修復方法について検討を重ねるなど、一定の成果を上げている。 今後、より多くの関係機関と連携した活動の実現を目指す。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	6 文化振興
事業項目	(7) りすた図書館事業
実績・効果	地方創生臨時交付金により図書の購入費が増額され、蔵書の充実や増書を積極的に進めることができた。 ○乳幼児健診会場での読み聞かせ・絵本紹介 ○小学校での朝の読み聞かせ、ブックトーク ○小中学校図書整理 ○読書週間行事としての古本市 ○月ごとのおすすめ本の紹介や展示 ○道立図書館、読み聞かせボランティアの協力による小学校での「学校ブックフェスティバル」
課題・方向性	ボランティアの協力により幅広い活動が成り立っているが、専門職員の増員や育成が不可欠。 今後も図書館としての機能充実に努め、幅広い利用者の獲得を目指す。
事業達成度	事業効果 教育委員会 自己評価
B	A
	コロナ禍における在宅期間の充実を図るため、増書のほかインターネット予約の導入や除菌ボックスの設置を進められた。それに伴い利用者が増えたが引き続き利用者の利便性向上や多様な分野の蔵書が重要。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	6 文化振興
事業項目	(8) 郷土文化施設事業
実績・効果	・平成28年度 石炭博物館模擬坑道の大規模改修工事を実施 ・平成29年度 石炭博物館本館の大規模改修工事を実施 ・平成30年度 指定管理の導入を決定 ・平成31年4月 模擬坑道内にて出火。坑道内に注水を行い消火作業は完了 ・令和2年1月 排水作業に着手 ・令和2年度 施設の早期復旧・再開に向けて坑道内の調査を実施 ・令和3年度 復旧に必要な旧北炭夕張炭鉱模擬坑道保全活用計画を策定 ※令和4年度8月 模擬坑道復旧工事がスタート
課題・方向性	・石炭博物館模擬坑道については、早期の再開を目指し有識者会議委員等からの助言を受けながら指定管理者と協議のうえ再開の準備を進める。 ・SL館に残されている機関車の保存方法の検討が必要である。
事業達成度	事業効果 教育委員会 自己評価
B	B
	後世に残すべき施設である石炭博物館模擬坑道の再開は、本市の再生へもつながって行くものであることから、今後石炭博物館を核とした活動をより一層力充実させていくことが必要である。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	6	文化振興
事業項目	(9) 人材バンク事業	
実績・効果	平成14年3月に発足し財政再建団体に指定される前まで実施された「夕張市ワーク指導員派遣制度事業」を平成30年度よりリニューアルし、「夕張市ふるさと人材バンク」として関り人口の確保と市内における経験、知恵等の流入及び循環を推進。 (登録6分野) ①美術・工芸、②音楽・芸能・文芸、③生活・趣味・娯楽、④教養・歴史、⑤体育・スポーツ、⑥企業・産業 (登録数) 個人登録：8、 団体登録23	
課題・方向性	広報活動、総合型地域スポーツクラブとの連携をさらに強めていくことが必要である。今後の課題として、講師登録数と総合型スポーツクラブ以外での利用実績の向上があげられる。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	総合型スポーツクラブの活動により利用率は増加しているが市民のニーズに応じた活用方法などの見直しは今後も必要である。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	6	文化振興
事業項目	(10) 音楽発表会事業	
実績・効果	音楽発表会は、本市の児童生徒の健全育成及び文化活動の一環として、日頃の教育活動の成果を広く市民に示す場であると共に、幼・小・中・高校間さらに保護者をはじめとした地域住民の音楽を通じた交流の場として位置付けている。 幼・小・中・高校が一堂に会しての音楽の祭典として、半世紀の歴史と伝統があり、地域文化の向上と振興を考えるうえで大きな成果が得られている。 令和3年度は、前年に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大のため事業中止となった。	
課題・方向性	音楽発表会は、幅広い世代が参加する事業として、一層の発展が期待される。 令和4年度からは市教委が事務局となり事業を実施する予定 ※令和4年度も中止	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
C	C	音楽発表会は児童生徒の健全育成及び情操教育の一翼を担う事業であり、さらに学校間連携の推進にも大いに寄与している。本市の教育振興の観点からも、感染症の影響によりやむなく事業中止となったが、継続した事業展開が必要である。

事務事業名	7 スポーツの振興		
目的・概要	子どもからお年寄りまで、市民があらゆる機会を通じて気軽に楽しくスポーツやレクリエーション活動に参加できるよう、生涯スポーツに適した環境の整備を推進するとともに、施設利用者の利便性を考慮するなど、合理的な施設運営に努める。		
主な事業項目	(1)	文化スポーツセンター管理	(3) 体育施設管理（指定管理等施設）
	(2)	平和運動公園管理	(4) 清水沢プール管理
課題・方向性	新型コロナウイルス感染拡大に伴い収入は減少したが、今後も感染防止対策を徹底したうえで、適切な管理運営を行い、サービス向上に努め利用者の増加を目指す。		
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価	
B	B	必要最小限の予算と限られた職員体制の中で創意工夫しながら運営を行ない、スポーツ振興、健康増進の推進に留まらず、大会等の開催で地域の活性化にも大きく寄与していると言える。	
判定	評価委員会 評価・意見		
B	(1) 文化スポーツセンター管理について 夕張市のスポーツ施設の中核を有し、市民の健康増進の「場」として、啓発活動や大会の誘致などに取り組んでいる指定管理者である「NPO法人夕張市体育協会」との連携による、市民スポーツ交流会事業など様々な企画がなされ利用者からも好評を受け、また、施設管理面では、事業の円滑なる運営・推進を図るため職員の増員が実現されたことは評価したい。今後、施設の老朽化への点検と補修管理に向けた予算措置を講じられたい。 (2) 平和運動公園管理について 管理された美しい天然芝は利用者から高い評価を得ており、今後も引き続き、グラウンド土壌分析による肥料薬剤など散布を計画的に進められ、必要な環境整備と施設維持管理に努めていただきたい。 (3) 体育施設管理（指定管理等施設）について 市内の体育施設は老朽化が激しく修繕等が必要なものについて安全に利用できるよう災害防止策を含めた対策が急務と思われる。 (4) 清水沢プール管理及び利用状況について 市民に水に親しむ機会を提供され、例年、利用状況は減少傾向にあったが、今年度は、暑さが続き利用者が増加した。幼児用のビニールプールなど亀裂の有無の確認と補修点検を継続して実施していただきたい。 【総括】スポーツの振興は市民の健康と精神的な潤いをもたらすものであり、施設利用への参加を図るため市のHPや暮らしのカレンダーなど各種媒体を通じ広報活動が展開され、コロナ禍にあっては感染防止策に努めながら積極的に取り組んできた努力は評価したい。 近年、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、施設利用者も減少傾向にあるが、老朽化している施設の補修など施設整備については、緊急性や必要性を十分に勘案して指定管理者と連携を図りながら対策を講じてきたことは評価できる。 なお、スポーツを愛する市民が気軽に利用できるよう「ゆうばりスポーツクラブ」などと連携を深め、親睦と交流が活発に展開され行政、指定管理者、地域住民と連携を図り果敢に取り組んできたことは、夕張市のスポーツ振興に繋がったことは評価したい。		

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	7 スポーツの振興	
事業項目	(1) 文化スポーツセンター管理	
実績・効果	①情報提供：行事予定などを「暮らしのカレンダー」に掲載するとともにサークル紹介のポスター掲示等により情報提供。 ②設備維持管理：平成29年度から特定非営利活動法人夕張市体育協会が指定管理者となり、他の事業者と連携した効率的な運営を行っている。	
課題・方向性	- 指定管理者との協働で、施設及び事業のさらなる充実を目指す - 修繕や備品の更新については、必要に応じ、利用者に不便や負担にならないよう予算要求を行う。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	新型コロナウイルス感染拡大に伴う休館及び移動自粛等により、利用者数は減少している。今後も感染状況によっては利用減となるが、感染対策を徹底した上で、利用者が安全かつ快適にスポーツを楽しめるような施策を、指定管理者とともに協議検討する。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	7 スポーツの振興	
事業項目	(2) 平和運動公園管理	
実績・効果	①情報提供：文化スポーツセンターと同様、「暮らしのカレンダー」に開催される行事を掲載し、情報提供を行ってきた。 ②施設維持管理：平成29年度から特定非営利活動法人夕張市体育協会が指定管理者となり、他の事業者と連携した効率的な運営を行っている。 指定管理者において、グラウンド利用の合間をぬって天然芝の補修・育成等のメンテナンスを行い、計画的なグラウンド芝を整備・補修をしている。	
課題・方向性	指定管理者との連携を図り、グラウンド土壌分析による肥料、薬剤等の散布、エアーウェイで土壌改良をして芝の生育促進を効果的にやっていく。 また、芝のメンテナンスを行うために利用者にも協力を得ながらスケジュール調整を行う。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	新型コロナウイルス感染拡大の影響により施設利用における大会が小規模になっていること、また宿泊施設の閉鎖に伴い合宿の受入れが困難になっていることから利用者は減少しているが、管理された天然芝は高い評価を得ている。 今後も必要な環境整備と施設管理に努めることとしたい。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	7 スポーツの振興	
事業項目	(3) 体育施設管理（指定管理等施設）	
実績・効果	・市直営が難しいことから、指定管理等での運営を行っている。 1. 指定管理 ①市民健康会館 ②市営球場 ③紅葉山パークゴルフ場 2. 協定書による無償管理委託 ①夕張岳ヒュッテ	
課題・方向性	・指定管理で運営する体育施設は老朽化が進んでおり、利用者数も減少していることから、今後の運営については管理者と十分な協議・検討を行う必要がある。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	B	各管理者は創意工夫をして管理・運営にあたっているが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う休止等により、利用者が減少している。 但し、本市のスポーツ振興に大きく寄与していることから、感染防止対策を実施しながら、今後も各管理者と協力して管理にあたることとしたい。 修繕等が発生した場合は、今後の運営方法等を鑑みながら、必要に応じ予算要求を行っていくこととしたい。

令和4 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	7 スポーツの振興	
事業項目	(4) 清水沢プール管理	
実績・効果	H20.3に屋根の崩落により使用不能となった、室内温水プールの代替え施設として休止していた現在の清水沢プールを整備し、平成21年度から使用している。 平成29年度から特定非営利活動法人夕張市体育協会が指定管理者となり運営を行っている。 ○利用実績 ・稼働期間 7月中旬～8月中旬 ・主な利用者 ほぼ小学生が利用している。	
課題・方向性	・指定管理による、より充実した運営を目指す。 ・市内唯一のプールであるため、今後も必要な修繕・更新等を実施し、市民が水に親しむ機会を提供できるようにする。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	小学生を中心に多くの市民に水泳を楽しむ機会を提供したが、小学校・保育園のプール授業は新型コロナウイルスの感染拡大により実施されなかった。 新型コロナウイルス感染拡大対策により、営業日の短縮を実施し利用者は減少したが、今後も指定管理者との協働で、必要な修繕・更新等を実施し、施設の維持・管理に努めたい。